

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200858		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-静岡与一(1階)		
所在地	静岡県静岡市葵区与一二丁目5-19		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2294200858-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にあり、ホームの前の川では鴨が数羽泳いでいます。桜の季節は近隣の病院の庭へお花見へ行ったりと散歩にも適した立地にあります。建物も日当たりが良く、冬でも日光浴ができるくらい暖かくベランダで過ごされる方もいます。職員も明るくご家族様からも「明るくていいわね」と言って頂け、ボランティアや地域の保育園とのふれあひも行事に取り入れています。また、月に1度は季節や入居者様からの要望を考慮した外出・イベント企画実施しています。日々の生活にも季節感のある壁画作りを入居者様と一緒に作成したり楽しく活気のある生活ができる様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

誕生月企画「お楽しみ献立」で要望を聞いたところ、毎回「鮭食べたい」となるため「お腹いっぱい食べて満足していただく」という企画を新入社員が立案、ワゴンに寿司ネタを乗せて職員が握ってまわり、鮭やすき身、穴子の他、料理の得意な職員が太巻き等手作りして提供した結果、大好評で多めに買った鮭がソウルダアウトする次第で、この成功は本人に大きな励みとなり、周囲の鼓舞ともなっています。ほかにも、本部からスクリーンを借り日本の世界遺産を堪能、ワイドできれいな景色を見て感動の声が上がった日もあり、若い職員のアイデアをベテランが支える態勢が在り、チームワークの高まりが利用者の笑顔も増やしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念の「生き生き生きる」に基づき、入居者様、ご家族様、職員共に生き生きとした生活が出来る様にしている。毎日の朝礼でも理念等を唱和、職員からの「good&new」を発表してもらい、朝から楽しい気持ちで始める様に心がけている。	毎日の唱和のほか年間研修でも触れ、理念が正しく書けるか空欄を埋める等のテストも実施、職能評価のカテゴリにも理念の項目を設け、自己評価に基づいて管理者と年1回個人面談で振り返りをおこなうという仕組みがあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園やボランティアに行事を通して入居者様との交流をしている。夏祭りでは近隣の方へ案内を出したり、スーパー等へ掲示させていただいている。以前入居していた方の奥様がボランティアをしており、夏祭りへ参加をお願いしている。	中学OB生の地域貢献活動では花壇が一新し、園児来訪での玉入れ競技等、いずれも利用者の気持ちが高揚する機会となり、涙する人もいました。事業所の祭りでも地域からの応援を受け、用意したつかみ取り用菓子は段ボール2箱分が、またヨーヨー釣りは60個がはけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長が民生委員も兼務しており運営推進会議に参加していただき、認知症についても理解していただいている。地域の防災訓練の避難場所として駐車場を活用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、地域包括、介護相談員、町内会長、他のGHの管理者等に参加していただき、意見交流をし現場に活かしている。	事業所の取組みは写真をスクリーンに映し出しながら説明し、「映像だと判り易い」と出席者から好評です。土砂災害マニュアルの作成にともない、地域情報や避難経路を町内会長から教示されて大変役立つ例をはじめ、隔月開催を通じてメンバーに助けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課、地域包括には毎回、運営推進会議の案内と議事録、身体拘束廃止委員会の議事録を提出している。	運営推進会議には静岡市介護保険課が年1回、地域包括支援センターが毎回出席くださり、事業所では窓口まで出向いて運営推進会議案内と議事録を手渡ししています。昨年の実地指導では「指摘事項及び助言なし」で、日頃の事業所の努力が報われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をうたっている。現在身体拘束をするような事例がないが、今後も身体拘束をしない支援をしていくよう職員にも研修を5、11月に行っている。身体拘束廃止委員会を運営推進会議と合わせ実施している。	本年の法改正にあたっては、早期に指針を作成のうえ、『身体拘束廃止委員会』を設置しています。委員会開催は運営推進会議内とし、メンバーの協力を得て全4回を無事終えています。3要件が心配される利用者もなく、研修も年2回以上の実施をみています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、職員へ5、11月と虐待についての研修を行い、職員同士、虐待につながる様な行為があった場合はお互い注意しあい、管理者にも報告するように伝えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは数名利用されていた事例もあり、関係者とは定期的に連絡、報告、相談していた実績がある。今後も利用されている方や必要になった場合は活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった場合は必ず施設見学をして頂き、相談等も常に受け付けている。契約時は入居者様、ご家族様に十分説明を行い、質問、疑問等があればその都度説明し、ご理解していただき不安がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に週1回～4回来て下さっているご家族様も多い。その都度ご様子の報告とご要望を聞くようにしている。遠方等で面会に来ることが難しいご家族様へは月1回入居者様の写真を付けたお手紙にてご様子を報告している。	日常の暮らし向きや本人の表情変化が確認できる写真を複数枚添え、1ヶ月間の様子を綴った手紙は毎月、また『たみの里便り』と運営推進会議の議事録は隔月送付して、家族と事業所とで持つ情報が食い違わないよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会および毎朝の朝礼時に職員からの提案、改善を話し合い意見をまとめホーム長会議にて提案したり、ホーム内の事では実施できるようにしている。年に1回職員と面談を行っている。	定例会では満遍なく全員の発言を求めており、それでも大勢の前で言いにくいことは記載ノートもあり、管理者も何か気づけば声をかけています。個人面談が年1回あるほか、作年度より法人内に発足した『同好会』を通じてボーリング大会やBBQなどでの親睦が図られてもいます。	新採が増え、新人がベテランに好影響を与えている例もあるようですが、報連相やケアサービスに格差がでないよう、さらに工夫があることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の年1回の表彰では職員個人の実績、勤務状況等を評価し、やりがい、向上心を持って働ける環境作りに努めている。また、年2回の自己評価、現場評価、テストを行い昇給等の参考にしている。27年度よりキャリアパスを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会において、テーマを決めて勉強会の時間を設けている。また、職員の意欲向上の為、介護福祉士会の出張講座を利用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士会の出張講座の活用や、他のGHの事業者と交流を持ち、運営推進会議にはお互いに出席し意見交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談、申し込みがあった時点からご要望や困りごと等お聞きし、入居者様、ご家族様のご希望に沿うよう考慮している。入居後も日中、夜間問わず、入居者様の些細な言動を見逃さないようにし、安心できる様、信頼、環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談、見学の際、ご家族様の困りごと、不安な事、ご要望をお聞きしながら関係性を作っている。入居後も様子や介護についての方向性など報告、相談しながら行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後、ご本人と面談、アセスメントを行い、必要とされる支援の把握をしている。また、居宅、施設の担当介護支援専門員からも情報を提供していただき初期の対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、個々の出来る事、好きな事を活かし役割をもって暮らしを共にしている。掃除、洗濯、調理、買い物等一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様、ご家族様の想いを真摯に受け止め、絆を大切にしより良い関係が継続できるように努めている。面会時もゆっくりお話が出来るように居室や事務所を利用して頂けるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様、ご家族様には馴染みの方、ご友人等にもご面会に来て頂けるようにお伝えしている。面会時間も特別制限はしていない。	孫が作品を届けてくれたり、居室に歌集を置いて面会の家族と声を合わせるのが楽しみな人、小麦粉が苦手な人は白米と梅干で活力を得るなど、その人それぞれの馴染みの暮らしが在ります。面会時間は定めず「深夜でなければよい」と、開かれた事業所運営につなげています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じ入居者様同士が関わりを持てるように努めている。その中で入居者同士の助け合いも見られる。また、1、2Fもイベント行事やレクリエーション等で交流している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービスの提供や相談支援に努めている。以前入居していた方の奥様がボランティア活動をしており、夏祭りには一緒に参加して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話より入居者様の想い、ご希望を読み取りサービスへ活かしている。長くご入居されている方もおり、介護度が重度化し把握が困難になってきているが、日々の生活で笑顔が見られるよう支援している。	新卒採用者の現場研修では、利用者とのコミュニケーション能力を高めるため、「一日コミュニケーション」の日を設けています。利用者の隣りに座って寄り添い傾聴したり、職員の動きも観察しながら1名分の介護計画書を仕上げるところまで体験しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅、施設サービスをご利用されていた方は担当の介護支援専門員へ情報を提供して頂いている。また、入居者様やご家族からも聞き取りをし、今までの生活ペースを崩さないように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から個々の様子を観察し、記録することで、出来る事、出来ない事を把握し、工夫したら出来る事等、申し送りを口頭やノートを活用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会、カンファレンスで入居者様、ご家族様の要望を職員間で共有している。アセスメント・モニタリングの為、意見交換を行い、介護計画書に反映している。	『カンファレンス・モニタリング表』としてカンファレンスと連動するようにフォーマットを変更しています。『主治医・訪看の意見』『本人・家族の意見』『短期目標ごとのカンファレンス・モニタリング(達成度、本人、家族の満足度、評価)』を一覧とし、把握しやすくなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個人の経過記録、バイタル表等に記録している。気づいた点、支援における注意点、変更点がある場合は職員間で話し合い、申し送りにて共有し実践しカンファレンス時経過を報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様のニーズに合わせ、受診の送迎、買い物等の支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のボランティア・保育園に行事に一緒に参加して頂いている。町内の行事に参加や買い物も近隣へ行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、往診が月2回ある。往診以外も状態変化があった場合はかかりつけ医に報告、相談、連携を図り、結果をご家族様へ報告している。	月2回訪問診療のある協力医に17名が変更しています。かかりつけ医を継続する1名の受診支援は家族がおこない、バイタル表のコピーを渡す他、腎臓系の受診のため尿の状態もコピーで渡しています。個々の経過記録に結果を記載しており、いつでも確認することができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、状態変化にいち早く気づき必要時応じて随時、訪問看護、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。週1回訪問看護がある為、些細なことも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況把握の為、面会に行き、病院関係者より情報提供して頂いたり、主治医からの病状説明がある場合はご家族様と一緒に立会いさせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りおよび医療連携に関する指針」を作成し、入居時にご家族様に説明している。重度化しつつある入居者様にかかりつけ医とご家族様と相談しながら、全職員で状態の把握、情報の共有をし支援している。ご退去されている方の殆どが看取り介護をさせて頂いている。	契約時は「看取り及び医療連携に関する指針」に基づいて説明、家族の同意を得ています。また「胃瘻や経管栄養はしたくない」等、契約の段階で意思確認書を取り、状態変化の際に再確認しています。看取り終了後はアンケートをとって「次に出来ること」を振り返っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が法人の基礎研修を受けている。応急手当を行う時も指導し、訪看やかかりつけ医からの指示、指導もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を実施している。消防より水消火器をお借りしたり、消防士の避難訓練の立会い時には避難方法のアドバイスも頂いている。	消防署職員の立合いを得て、重度の利用者を2階から避難させる方法等具体的にレクチャーしてもらい、不安がる職員に「ケガよりも命を守ることを優先する」の教えもありました。また地域防災訓練には事業所駐車場を地域の第一避難場所として提供しており、当日は大変賑わいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しその方の生活履歴を含め、言動には注意し支援している。不適切な言動が見られるときはその場で管理者が指導している。全職員、法人の基礎研修にて接遇について学んでいる。	食べこぼしをそっと拭ったり、食事に集中している人の気持ちが途切れないよう床に落ちたものをさりげなく拾ったり、リンゴを指差し「これ、小さくしてきましょうか」と本人の了解を得てから器をキッチンに運んで刻んでくるなど、僅かな食事場面のケアにも接遇研修の成果が現れます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日や行事食、外出等を決める際は必ず入居者様と相談したり、日々の会話からの嗜好を聞いておき参考にしている。個々の日用品を購入時はご本人と一緒に行き自分で選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、個々のペースに配慮してご希望に沿った支援をするように努めている。その日の体調にも合わせ、起床時間や食事の時間をずらしたり等もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びや毎朝の整容を入居者様に聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や行事食のメニュー決めや食事の下準備から食器やお盆を拭いたりと片付けも手伝いをして頂いている。毎食配膳前に1食分を写真を撮り、味はもちろん、見た目も一定レベルを保つよう記録している。	本部が毎月検食簿をチェックして味付け、彩りなど検討するとともに、一汁三菜を守り毎朝ヨーグルトをつけています。またお昼には必ず果物をつけ、おやつ作りも大変盛んで、おはぎ、ぼた餅、月見だんごなど、丸めたり切ったり、できることは一緒におこない楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分等の記録をしている。飲み物も個々の嗜好に合わせ数種類用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助をして実施している。就寝前には義歯を洗浄剤にて消毒している。食事前には口腔体操を行い口腔機能の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録・把握し、トイレで排泄出来るように誘導している。夜間帯等状態に合わせて無理のないようオムツにて対応している。	チェック表を基に排泄パターンを把握するとともに、もぞもぞする、立ち上がるなど個々のサインを見逃さないようにしています。自宅でリハビリパンツだった人が、声かけと定期的なトイレ誘導で布パンツに変わり、家族からも「布パンツでいいんですか」と喜ばれた事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供。日々のメニューも根菜や繊維質の食材を使用し、自然排便を促している。体操等、適宜な運動を取り入れている。毎日の申し送りで排便の有無を確認し個々に合わせて、かかりつけ医からの便秘薬を使用し、排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回の入浴を基本としている。排泄で汚れてしまった場合など、状況に応じて優先的に入浴している。入浴剤も数種類用意し入居者様に選んで頂いている。一番風呂に入りたい方への希望も叶えている。	一番風呂に入りたい人が複数のため日にちを変えて対応し、シャワーとなった利用者3名についてはかけ湯をしたり、たらいに湯を張った足浴で充分温まれるよう配慮しています。また同性介助の希望にも応えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に合わせて居室にて休んで頂いている。居室の温度・湿度にも注意しエアコンや加湿器の使用にて調整、エアコンが嫌いな方もいる為、冬は湯たんぽなど使用し安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報がいつでも確認できるようにファイリングしている。薬の変更など投与の目的、量、副作用などの注意点を申し送りノートに記載し職員へ周知させている。症状の変化が見られた場合はかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日や行事食や外出等入居者様と相談したり、日々の会話から嗜好を聞き取り考慮している。日常生活の中でも洗濯、食器拭き等のお手伝いやレクリエーションでの作品作りを楽しく行って頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や駐車場での日光浴、買い物と一緒にいたりしている。月1度の外出支援も取り入れ、気分転換を図っている。数名ご家族と定期的に外出される方もいらっしゃる。	冬季でも穏やかな日は散歩したり、駐車場に椅子を並べて外気浴や体操に取り組んでいます。春になると近くの医療センターへお弁当をもって出かけたり、桜の名所めぐりドライブや車いすのまま入れるイチゴハウス、秋になると花鳥園、サファリパーク、日本平動物園へ出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者様が金銭を持つ事はしていないが、ご本人様の希望に応じて、ご家族様と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と定期的に電話でお話されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに落ち着いて生活できるように職員の言動も含め環境を整えている。季節感が分かるようにレクリエーションにおいて作品作りをし各お部屋やホールへ飾っている。	ピクチャーレールを活用してコルクボードに作品を展示していて、特に作品展に出品した思い出の『ひまわりペイント』からは誉が滲んでいます。ワックスがけのいらぬ床材で光沢がもともとありますが、朝食後から夜勤帯まで清掃の分担、手順が毎日繰り返され、清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごすテーブルの配置等、状況に応じて変えている。殆どの方がホールにて過ごすことが多い。仲の良い方と会話を楽しめたり、テレビを見たり、デッキにて日光浴を楽しめたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやベット等を持ち込んで頂き危険のない様に設置している。好きな写真やご自分の作品等も飾りっている。	毎週家族がやってきて一緒に歌っているという人の居室には歌集が何冊も積まれています。加湿器に「風邪予防のため夜つけて朝消してください」と家族が貼ったというメモがあったり、壁や枕元に氷川きよしの写真が並んだり、その人らしさが表れています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前のプレートを設置、トイレは絵を貼ったり迷うことなく自立した生活が出来るように努めている。職員も過剰に介護しすぎる事がない様に出来る事はご自分で行って頂き生活リハビリを意識して対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200858		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-静岡与一(2階)		
所在地	静岡県静岡市葵区与一二丁目5-19		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200858-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にあり、ホームの前の川では鴨が数羽泳いでいます。桜の季節は近隣の病院の庭へお花見へ行ったりと散歩にも適した立地にあります。建物も日当たりが良く、冬でも日光浴ができるぐらい暖かくベランダで過ごされる方もいます。職員も明るくご家族様からも「明るくていいわね」と言って頂け、ボランティアや地域の保育園とのふれあひも行事に取り入れています。また、月に1度は季節や入居者様からの要望を考慮した外出・イベント企画実施しています。日々の生活にも季節感のある壁画作りを入居者様と一緒に作成したり楽しく活気のある生活ができる様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

誕生月企画「お楽しみ献立」で要望を聞いたところ、毎回「鮭食べたい」となるため「お腹いっぱい食べて満足していただく」という企画を新入社員が立案、ワゴンに寿司ネタを乗せて職員が握ってまわり、鮭やすき身、穴子の他、料理の得意な職員が太巻き等手作りして提供した結果、大好評で多めに買った鮭がソウルダアウトする次第で、この成功は本人に大きな励みとなり、周囲の鼓舞ともなっています。ほかにも、本部からスクリーンを借り日本の世界遺産を堪能、ワイドできれいな景色を見て感動の声が上がった日もあり、若い職員のアイデアをベテランが支える態勢が在り、チームワークの高まりが利用者の笑顔も増やしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念の「生き生き生きる」に基づき、入居者様、ご家族様、職員共に生き生きとした生活が出来る様にしている。毎日の朝礼でも理念等を唱和、職員からの「good&new」を発表してもらい、朝から楽しい気持ちで始める様に心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園やボランティアに行事を通して入居者様との交流をしている。夏祭りでは近隣の方へ案内を出したり、スーパー等へ掲示させていただいている。以前入居していた方の奥様がボランティアをされており、夏祭りへ参加をお願いしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長が民生委員も兼務しており運営推進会議に参加していただき、認知症についても理解していただいている。地域の防災訓練の避難場所として駐車場を活用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、地域包括、介護相談員、町内会長、他のGHの管理者等に参加していただき、意見交流をし現場に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課、地域包括には毎回、運営推進会議の案内と議事録、身体拘束廃止委員会の議事録を提出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をうたっている。現在身体拘束をするような事例がないが、今後も身体拘束をしない支援をしていくよう職員にも研修を5、11月に行っている。身体拘束廃止委員会を運営推進会議と合わせ実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、職員へ5、11月と虐待についての研修を行い、職員同士、虐待につながる様な行為があった場合はお互い注意しあい、管理者にも報告するように伝えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは数名利用されていた事例もあり、関係者とは定期的に連絡、報告、相談していた実績がある。今後も利用されている方や必要になった場合は活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった場合は必ず施設見学をして頂き、相談等も常に受け付けている。契約時は入居者様、ご家族様に十分説明を行い、質問、疑問等があればその都度説明し、ご理解していただき不安がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に週1回～4回来て下さっているご家族様も多い。その都度ご様子の報告とご要望を聞くようにしている。遠方等で面会に来ることが難しいご家族様へは月1回入居者様の写真を付けたお手紙にてご様子を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会および毎朝の朝礼時に職員からの提案、改善を話し合い意見をまとめホーム長会議にて提案したり、ホーム内の事では実施できるようにしている。年に1回職員と面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の年1回の表彰では職員個人の実績、勤務状況等を評価し、やりがい、向上心を持って働ける環境作りに努めている。また、年2回の自己評価、現場評価、テストを行い昇給等の参考にしている。27年度よりキャリアパスを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会において、テーマを決めて勉強会の時間を設けている。また、職員の意欲向上の為、介護福祉士会の出張講座を利用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士会の出張講座の活用や、他のGHの事業者と交流を持ち、運営推進会議にはお互いに出席し意見交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談、申し込みがあった時点からご要望や困りごと等お聞きし、入居者様、ご家族様のご希望に沿うよう考慮している。入居後も日中、夜間問わず、入居者様の些細な言動を見逃さないようにし、安心できる様、信頼、環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談、見学の際、ご家族様の困りごと、不安な事、ご要望をお聞きしながら関係性を作っている。入居後も様子や介護についての方向性など報告、相談しながら行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後、ご本人と面談、アセスメントを行い、必要とされる支援の把握をしている。また、居宅、施設の担当介護支援専門員からも情報を提供していただき初期の対応の参考になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、個々の出来る事、好きな事を活かし役割をもって暮らしを共にしている。掃除、洗濯、調理、買い物等一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様、ご家族様の想いを真摯に受け止め、絆を大切にしより良い関係が継続できるように努めている。面会時もゆっくりお話し出来るように居室や事務所を利用して頂けるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様、ご家族様には馴染みの方、ご友人等にもご面会に来て頂けるようにお伝えしている。面会時間も特別制限はしていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じ入居者様同士が関わりを持てるように努めている。その中で入居者同士の助け合いも見られる。また、1、2Fもイベント行事やレクリエーション等で交流している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービスの提供や相談支援に努めている。以前入居していた方の奥様がボランティア活動をしており、夏祭りには一緒に参加して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話より入居者様の思い、ご希望を読み取りサービスへ活かしている。長くご入居されている方もおり、介護度が重度化し把握が困難になってきているが、日々の生活で笑顔が見られるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅、施設サービスをご利用されていた方は担当の介護支援専門員へ情報を提供して頂いている。また、入居者様やご家族からも聞き取りをし、今までの生活ペースを崩さないように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から個々の様子を観察し、記録することで、出来る事、出来ない事を把握し、工夫したら出来る事等、申し送りを口頭やノートを活用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会、カンファレンスで入居者様、ご家族様の要望を職員間で共有している。アセスメント・モニタリングの為、意見交換を行い、介護計画書に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個人の経過記録、バイタル表等に記録している。気づいた点、支援における注意点、変更点がある場合は職員間で話し合い、申し送りにて共有し実践しカンファレンス時経過を報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様のニーズに合わせ、受診の送迎、買い物等の支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のボランティア・保育園に行事に一緒に参加して頂いている。町内の行事に参加や買い物も近隣へ行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、往診が月2回ある。往診以外も状態変化があった場合はかかりつけ医に報告、相談、連携を図り、結果をご家族様へ報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、状態変化にいち早く気づき必要時応じて随時、訪問看護、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。週1回訪問看護がある為、些細なことも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況把握の為、面会に行き、病院関係者より情報提供して頂いたり、主治医からの病状説明がある場合はご家族様と一緒に立会いさせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りおよび医療連携に関する指針」を作成し、入居時にご家族様に説明している。重度化しつつある入居者様にかかりつけ医とご家族様と相談しながら、全職員で状態の把握、情報の共有をし支援している。ご退去されている方の殆どが看取り介護をさせて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が法人の基礎研修を受けている。応急手当を行う時も指導し、訪看やかかりつけ医からの指示、指導もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を実施している。消防より水消火器をお借りしたり、消防士の避難訓練の立会い時には避難方法のアドバイスも頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しその方の生活履歴を含め、言動には注意し支援している。不適切な言動が見られるときはその場で管理者が指導している。全職員、法人の基礎研修にて接遇について学んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日や行事食、外出等を決める際は必ず入居者様と相談したり、日々の会話からの嗜好を聞いておき参考にしている。個々の日用品を購入時はご本人と一緒に行き自分で選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、個々のペースに配慮してご希望に沿った支援をするように努めている。その日の体調にも合わせ、起床時間や食事の時間をずらしたり等もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びや毎朝の整容を入居者様に聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や行事食のメニュー決めや食事の下準備から食器やお盆を拭いたり片付けも手伝いをして頂いている。毎食配膳前に1食分を写真を撮り、味はもちろん、見た目も一定レベルを保つよう記録している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分等の記録をしている。飲み物も個々の嗜好に合わせて数種類用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助をして実施している。就寝前には義歯を洗浄剤にて消毒している。食事前には口腔体操を行い口腔機能の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録・把握し、トイレで排泄出来るように誘導している。夜間帯等状態に合わせて無理のないようオムツにて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供。日々のメニューも根菜や繊維質の食材を使用し、自然排便を促している。体操等、適宜な運動を取り入れている。毎日の申し送りで排便の有無を確認し個々に合わせて、かかりつけ医からの便秘薬を使用し、排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回の入浴を基本としている。排泄で汚れてしまった場合など、状況に応じて優先的に入浴している。入浴剤も数種類用意し入居者様に選んで頂いている。一番風呂に入りたい方への希望も叶えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に合わせて居室にて休んで頂いている。居室の温度・湿度にも注意しエアコンや加湿器の使用にて調整、エアコンが嫌いな方もいる為、冬は湯たんぽなど使用し安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報がいつでも確認できるようにファイリングしている。薬の変更など投与の目的、量、副作用などの注意点を申し送りノートに記載し職員へ周知させている。症状の変化が見られた場合はかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日や行事食や外出等入居者様と相談したり、日々の会話から嗜好を聞き取り考慮している。日常生活の中でも洗濯、食器拭き等のお手伝いやレクリエーションでの作品作りを楽しく行って頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や駐車場での日光浴、買い物と一緒にいたりしている。月1度の外出支援も取り入れ、気分転換を図っている。数名ご家族と定期的に外出される方もいらっしゃる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者様が金銭を持つ事はしていないが、ご本人様の希望に応じて、ご家族様と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と定期的に電話でお話されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに落ち着いて生活できるように職員の言動も含め環境を整えている。季節感が分かるようにレクリエーションにおいて作品作りをし各お部屋やホールへ飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごすテーブルの配置等、状況に応じて変えている。殆どの方がホールにて過ごすことが多い。仲の良い方と会話を楽しまれたり、テレビを見たり、デッキにて日光浴を楽しまれたりと思思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやベット等を持ち込んで頂き危険のない様に設置している。好きな写真やご自分の作品等も飾りっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前のプレートを設置、トイレは絵を貼ったり迷うことなく自立した生活が出来るように努めている。職員も過剰に介護しすぎる事がない様に出来る事はご自分で行って頂き生活リハビリを意識して対応している。		